

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和3年11月2日（火）

2 確認箇所

3号機タービン建屋2階

陸側遮水壁4号機西側（K排水路交差付近）

3 確認項目

- (1) 1号機原子炉格納容器ガス管理設備排気ファン全台停止事象の再発防止対策（3号機における水平展開状況）
- (2) 陸側遮水壁測温管の温度上昇の状況

4 確認結果の概要

- (1) 1号機原子炉格納容器ガス管理設備排気ファン全台停止事象の再発防止対策（3号機における水平展開状況）について

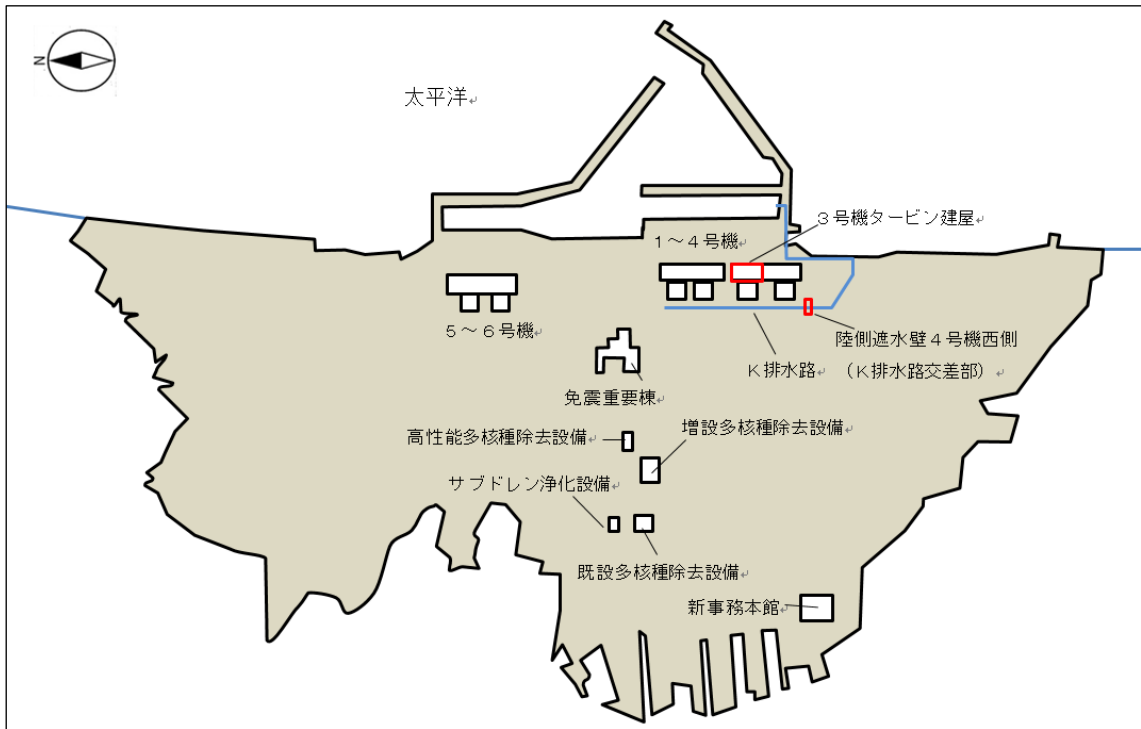
令和2年11月に誤操作により発生した1号機原子炉格納容器ガス管理設備排気ファン全台停止事象[※]について、暫定対策として緊急停止ボタンをプラスチック製カバーで覆うなどの措置（写真1）が講じられてきたが、恒久対策としてカバーに鍵を取り付ける対策が進められていることから状況を確認した。なお、今回は水平展開として行われた3号機の状況を確認した。（図1）

- ・原子炉格納容器ガス管理設備の制御盤は、タービン建屋2階の重要機器が納められているハウス内に設置されていた。（写真2）
- ・緊急停止ボタンは2基ある制御盤（A、B）それぞれに設置されており、ボタンを覆うカバーには鍵が取り付けられていた。（写真3）

※1号機原子炉格納容器ガス管理設備排気ファン全台停止事象

令和2年11月12日11時12分頃、当該設備のサーバの交換作業を実施していた作業員の一人が、警報確認ボタンを操作する際に誤って排気ファンの緊急停止ボタンを押したため、1号機原子炉格納容器ガス管理設備排気ファンが全台（A、B）停止し、当該設備の放射線検出器による燃料デブリの未臨界状態監視が不能となり、運転上の制限から逸脱した事象。

同日、排気ファンの起動操作を実施し、放射線検出器による燃料デブリの未臨界状態監視が可能であることが確認されて、14時40分に運転上の制限の逸脱から復帰した。



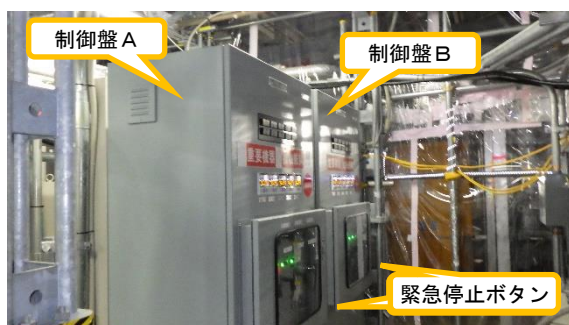
(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
1号機の暫定対策
(令和3年2月3日撮影)



(写真2-1)
3号機タービン建屋のハウス入口付近の状況



(写真 2 - 2)
原子炉格納容器ガス管理設備の制御盤



(写真 3)
緊急停止ボタンカバーへの鍵の取り付け状況

(2) 陸側遮水壁測温管の温度上昇の状況について

K排水路と交差している陸側遮水壁の一部の温度が上昇している事象について、前回 (10月29日) に引き続き、状況を確認した。(図1)

(写真4)

- ・ 前回準備が行われていたK排水路の調査区間のドライアップ作業 (上流側の水を下流側へ迂回する作業) は完了していた。(写真5)
- ・ 東京電力では、温度上昇の原因として排水路のクラックなどから水が凍結範囲に流入している可能性があるものと推定しており、現場確認時東京電力社員等によりクラックの目視調査が行われていた。(写真6)



(写真 4)
K排水路入口の状況
(4号機西側)



(写真5)
ドライアップ作業は完了
(矢印は勾配)



(写真6)
目視調査の状況

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。